

## 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第7回） 議事要録

日 時 平成29年10月2日（月）19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所 812 会議室

出席者 委員 14名、事務局 3名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、長島委員、新立委員、田中委員、志賀委員、村井委員、塩澤委員、木村委員、鈴木（圭）委員、上吉川委員、大谷委員、郡委員

議事等 1 運営のあり方について

2 その他

### 1 運営のあり方について

発言者	要旨
事務局	<p>前回配布したA3版資料のコスト欄に、収入を追加してほしいという要望をいただいたが、単純に比較することが難しいため、修正版を提示できなかったことをご理解いただきたい。</p> <p>資料1「環境啓発施設の機能について」は、環境啓発施設の運営の検討にあたり、運営者が切り盛りする一般的な機能を一覧にしたもの。二重線で囲んだ施設運営のポイントは、委員の皆様の意見を基に、事務局で整理してまとめた。点線で囲んだ視点についても、前回までに出された意見から抽出したもの。資料の内容としては、大きく分けて、建物の維持管理と事業のマネジメントの2つ。これだけ多くの機能を運営するということを考慮して、ふさわしい運営について議論いただけたらと思う。</p>
委員長	<p>今回の資料は、前回までの資料を基に、つながりを残しながらも、わかりやすさを考慮して整理したということ。忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>運営のポイントとして3つ挙げられているが、メタボリズム、市民参加、連携とあるが、そのベースにはクリーンセンターの3つの視点、低炭素社会、地域力、まちづくりの連携などが入っている。</p> <p>昨日私用で出かけた東京女子大学には、「国際社会学科コミュニティ構想専攻」があり、コミュニティにおける問題解決の手法などを学んでいる。こうした新しいものを、先んじて武蔵野市は取り入れていたと思うので、いろいろなご意見をいただければありがたい。</p>
副委員長	<p>全般的事項と来館者等対応の2つは「必要条件」になり、館の運営には必須。その下の情報伝達、展示、学び、交流、活動という5つの要素が「十分条件」になる。両方ないとダメだが、下の十分条件を頑張ると上の必要条件が大変に</p>

	<p>なる。下の十分条件は環境啓発の本質やテーマになるため、どうピックアップして優先順位をつけ、特徴づけていくのかがこの特徴になると思うし、最初に全部固定しない方が妥当な考えだと思う。</p> <p>運営する時に、一つの人格でやると、下の十分条件を頑張ろうとすると上の必要条件が大変になるので抑制が働き、余計なことをしなくなってしまう可能性がある。上の必要条件と下の十分条件の人格を分けて、指定管理者、公募連携などをどういう役割で分担するかも含め、機能を考えていきたい。</p>
委員長	<p>これらすべての機能に対応できるパーフェクトなデザインにしていくかどうかは、別の問題。上の全般的事項と来館者等対応が、いわゆる場づくりや場のデザインになる。場のデザインは時代によっても変わるので、全体的な視点として、メタボリズムやフレキシビリティといった柔軟性をしなやかに受け止め、そこを入札の際に書き込んでいくことになる。</p> <p>クリーンセンターの外観デザインは、工場的でないデザインをという意見を反映し、現在のものになっているが、エレベーターや案内がわかりにくいなど、改善要素がまだあるので、こうしたことも全般的事項で手が加えられるような仕様にできると良い。情報伝達から下の活動までが有機的につながってくるからこそ、武蔵野市のオリジナリティが展開される部分になると考えている。</p>
委員	<p>環境と一口に言ってもテーマ、ジャンルが多様にあり、なかなか見えてこない。考えやすいのは、テーマを決めて、エコプラザに必要な機能について議論した方がよりわかりやすいと思う。例えば、自然体験や自然を大事に思う心を育てるというアウトカムを得るために、エコプラザが何をできるかという視点から見ると、安曇野に行くなどのことが思い浮かぶかもしれない。座学や映像よりも、現地での体験ということになるかもしれない。</p> <p>達成したいことに照らし合わせ、エコプラザの施設の中でできることなのか、地域のコミュニティセンターで出前講座をするのか、遠くまで見学に行くのかを具体的に考えると、機能をよりリアルに考えられると思う。</p>
委員長	<p>これまでの議論のベースは、クリーンセンターとエコプラザで低炭素社会のモデル地域にしていくということが前提。また、コミュニティの力を結束し、市民参加を進め、まち全体を拠点化していきたいということが前提としてあった。そのことが全体的視点の2行目に簡便に要約されている。</p> <p>また、いきなり低炭素社会という話をしても、すぐにこまめに電気を消しましょうとはならないため、より進展していく形にしていくにはどうしていけば良いか、ということも大事。</p>
委員	<p>全般的事項と来館者等対応が必要条件ということはわかるが、その下の情報の伝達、展示・学び・交流は活動の延長にあり、情報の伝達は必要条件の延長でもあると思う。活動の項目が、上の展示や学び、交流に比べて、あまり具体</p>

	<p>的ではないところを見ると、並べ方が違うのではないかと思う。</p> <p>周辺整備協議会の間まとめの中に「モヤモヤ」というのがあったが、そのようなものがあって、初めて少しずつ形作られると思う。大変な作業だが、最初から決まっているよりもその方が楽しく、オリジナリティがあるものが出てくると思う。</p>
委員長	<p>本来なら、ここに何層かの透明の色分けしたものが重なっていて、それぞれ次元が違って、二層目のものと一番上のものとが関連していて、そこに創発的な地域住民のエネルギーが集約されていくのかもしれない。</p> <p>空間としては、長方形の立方体があるとだけ考えておけば、いろいろな場づくり、それぞれのスペースをどうデザインしていくかというところにもつながっていくと思う。</p> <p>仮に運営が指定管理になったとしても、いろいろなアイデアを入れたいし、市民参加という基本コンセプトは変えられない。</p> <p>周辺整備協議会で行ってきた中高生のワークショップなどももっと取り入れると、次の世代育成にもつながる。その辺りはしなやかにフレキシブルに考えたい。</p>
委員	<p>全般的事項と来館者等対応は必要条件という話があったが、後ろの方を見ると、研修や勉強会の実施、各種相談受付があり、必ずしも必要とは言えない条件なのではないか。本当に必要な条件と必要ではない条件をきちんと分けた方が団体にとってもやりやすいと思う。</p>
委員	<p>事務局としての意見になるが、指定管理者制度や、直営、直営以外という議論の中で、誰が何を運営するかを考えたときに、どういう機能があるのかを紐づけするために作った表。建物管理から事業運営のマネジメントの上2つまでは、どちらかというと手数みたいな話になっている。情報の伝達以下はヘッドワーク、アイデア。エコプラザを前提としながら、環境啓発と言え、こんなことをするのはないかというものをカタログ的、索引的に作った資料である。いきなりすべてを行うということではなく、ここから選んだり、あるいは書いていないことを選んだりしながら、いかに手数とアイデアとを組み合わせ、それを誰がどうやって回していくのかという話にしないと、空中戦みたいな話になってしまうと思う。この資料は索引のようにご覧にいただいて、取捨選択を含めて次につなげていただきたい。</p>
委員長	<p>アイデアはないが、今までの事例にはないような活動母体や管理母体が採用されると良いし、母体自体もしなやかにならないといけない。</p> <p>とある有名な環境団体から、企業からお金がほしいという内容の相談を受けた。産業界とは違い、環境系の団体はみんな手詰まりになっており、厳しい状況。武蔵野市は急かさず、意見が熟成していくプロセスをとっても大事にしてく</p>

	<p>れるところが良い。ここでは時間をかけて議論をし、運営者の入札の仕様のベースになれば良いと考えている。研修や勉強会の実施などについては、いつでも何でも相談できるホームページの受付窓口などが必要かもしれない。</p>
委員	<p>先ほど直営という話もあったが、この施設を継続的に維持していくためには、もちろん市がお金を出す方法もあるが、それ以外にも企業や市民からお金を集める仕組みがマネジメントとして必要なのではないかと思う。</p> <p>マネジメントとは全体をマネジメントするという意味だと思うが、お金が無尽蔵にあれば、学びも交流も活動も無尽蔵にできる。逆にお金が無くなってくると、みんなじり貧になる。そういうところを市がやるのか、創発的にやる仕組みにするのか。継続的に行うための何らかのお金集め、あるいは連携のつくり方をどこかに置いた方が良いと思う。</p>
委員長	<p>先ほど事務局から、別の資料のランニングコストについて説明があったが、組織では書けないものもあるし、行政の収入になり、団体の収入にならないものもある。それぞれの特性に応じて、企業からの寄付もあり得るかもしれないが、まだ決まっていないので、しなやかに考えたい。寄付で一番困るのは、寄付を受け入れたことで事業が固定化されて運営ができなくなり、住民からそっぽを向かれてしまうこと。かと言って、全部行政持ちという訳にもいかないと思う。クリーンセンターは20年間の管理や案内を含めて委託をしているが、そうなるかどうかはまだわからない。</p>
委員	<p>一時まちづくりで、プロジェクトに対してお金を出す仕組みをつくっていたところがいろいろあった。企画書を提出することで、一定の額が支援されるものだが、1年目はもらえても2年目からは出ないため、プロ集団でないといけない。企業も何らかの仕組みがないとお金が一つの団体には出せないのだと思う。以前、イベントを実施した際に、企業から寄付をもらおうとしたら、一つの団体には出せないということになった。例えばエコプラザという貯金箱に入れたお金をそこから振り分けることが、行政の仕組みの中でできる可能性はあるか？</p>
委員	<p>民間の企業の方に関わってもらう切り口も、あまり固定化せず、例えばネーミングライツのように、儲けるというよりは、回していく、運営していく上での企業との関わり方に、開発の余地があるのではないかと思う。</p> <p>日本のバスケットボールリーグは、初年度の昨年、思った以上にお客が入り、今年はさらに10%増しとのこと。地方の球団はなかなか黒字にならないが、日本では、こうした球技は黒字にならないというマインドになってしまっているので、そこに自分たちでアイデアを入れることによって黒字にしていくことが大事なのだという話をNHKの番組でしていた。この施設は公共なので、すべて税金で賄うのか、それとも運営のポイントの三つ目にあるように、エコッ</p>

	<p>トや環境省、水俣市、小田原で発電をしている方とか、いろいろなところと情報交換や連携をしながら学び合うのか。私たちが行ったり、向こうから来ていただいたりするほか、バーチャルでも意見交換をし、どんどんハブになっていくこともできる。そういうところに新しい価値観をつくり出し、そこに乘っていく方法を見つけ出すというのもあると思う。メタボリズムのように何ができるのかを考えていけたら良いと思う。ただし、軸足としては、クリーンセンターの隣にあるという点を絶対にずらさないことを忘れずにいないといけない。</p>
委員	<p>NPOは収益事業を行っている。あくまで非営利の立場で、太陽光発電の設置を考えている方に、シャープなら、パナソニックなら、三菱ならというアドバイスをして、判断のための情報を提供し、その対価をいただくという事業を収益事業として行っている。エコプラザは収益事業をできるのか。</p>
委員長	<p>情報提供として、メーカーによって性能が違うという情報は提供して良いと思う。判断はできない。</p>
委員	<p>利益のために判断にバイアスはかけない。民間の保険の窓口では、いろいろな保険についてアドバイスをもらえる。実際はマージン率が違うから、高いものを売りたいくなるが、どれを紹介しても事業者の利益は同じという構造が確保できれば、中立的なスタンスになる。</p>
委員長	<p>そういう情報提供をしてくれるNPOと、どう連携の形をつくるかということところだと思う。</p>
委員	<p>まちの案内所は、公共がやると、「このまちで美味しいラーメン屋は？」という質問に、「ラーメン屋は何十軒あるが、どこが美味しいかはご自分で」という話になる。民間だと、「ここがトップ5で、個人的にはここ」という提案ができる。だから公共でやったらつまらないとよく言われるが、それを公共の壁にしてはいけないのではないかと思う。壁はあるかもしれないが、誰がどの部分を担うのかということが一番問題なのだと思う。</p> <p>全市民の唯一の施設なので、公共施設ではあるが、運営にNPOが入ったり、民間が入ったり、それをどう組み合わせれば楽しい施設になるのかを考えるべきで、これをやってはいけない、あれはやってはいけないと言い出すと、思考停止になってしまうと思う。</p>
委員	<p>指定管理者は収益事業をできるはずだ。民間であってもNPOであっても同じだと思う。周辺整備協議会で視察に行った「アーツ千代田 3331」の事業運営は、千代田区と賃貸借契約だけの合同会社である民間企業が行っている。基本的に収益を出しながら運営するという構造だが、千代田区が求める公的な取り組みを行っているし、周辺の地域住民が望むことも行っている。民間企業が収益を出しながら、公的なことも行っているというモデルで、公の施設かどうかということところもあるが、そういう可能性も考えて良いと思う。</p>

委員	だからこそ、この図面の中に、儲けても良い部分、多少でも十分条件の機能を回すために努力をするということを項目として入れた方が良いのではないか。そうしないと、公共から全部もらってやるようになるので、それ以上のことは絶対にやらなくなり、面白くなるのではないかと思う。
委員	周辺整備協議会の間接まとめの中で、市民発意型プロジェクトという提案があり、こんなことを市民がやりたいということエコプラザでサポートし、プロジェクトとして立ち上げる。プロジェクトにお金が必要になったら、直接エコプラザが提供するのではなく、クラウドファンディングや、関連する企業の寄付、金融機関等に融資してもらっても良いし、いろいろな考え方ができると思う。そういうことも含めて、個別の単位、あるいは年間を通して何かやろうという時に予算が足りない分をどうするか、多様な可能性を考えることも大事だと思う。その機能も必要にはなってくる。
委員長	そういうことも構想してチェックする組織・団体に関わることができるという機能を付け加えるということだと思う。受託したところがすべて自分でやって良いということではない。市民参加の精神を入れて、住民からの発意、チェック機能が必要なことを書き込む必要がある。
委員	本市の文化会館は、指定管理者制度で運営しているが、市からの依頼でお金を出している事業もあるし、指定管理者として請け負う生涯学習振興事業団の独自事業もある。外から見るとよくわからないと思うが、市の事業と事業団の事業を組み合わせさせてやっている。先ほど別の委員がおっしゃっていた指定管理者制度の商業収入制度は、指定管理者の独自事業の売り上げを収入として事業を行うものだが、そのスタイルはとっていない。
委員	十分条件について、インデックスや索引として使ってほしいという話があったが、自分たちの活動をそのまま落とし込んでいけるような作業をいよいよ開始できると思っている。展示・学び・活動などが必要になってくるが、お金の問題や、箱をどうするかという議論など、実際にはこうしたことを落とし込んでいく作業が必要になると思う。こうした作業を、個々の委員がどう作業につなげていくのか？
委員長	個々の委員がというよりも、この会議の中で共有するという。あなたはこれを担当して、これを担当して、というやり方ではない。
委員	どういう機能を持たせるかということか？
委員長	理想が違っていても次元が違っていても、皆さんが出していただいた意見により、最終的なまとめとして行政内部で検討していただき、公開していく形になると思う。また、議会にも諮っていかないといけない。
委員	周辺整備協議会は、ごみのことを中心に2、3年くらいかけて協議してきたので、私たちが考えてきたことは、この中のどこかに入りそうだというのは何

	となくわかるが、緑のことや水の学校、太陽光発電なども、エコプラザでやりたいことがあるなら、それを伺いたい。そういう議論はまだできていない。
委員	あてはまるものなのか。
委員	それはわからない。私の立場から言うと、周辺整備協議会の中間まとめにある「モヤモヤカフェ」はぜひやりましょうと提案したい。プロジェクトにもならないような、市民が抱えるなんとなくモヤモヤした思いを、一人で抱えていると全然発展しないけれど、誰かが耳を傾けて一緒に語り合えば、少し輪郭が見えてくる。そこから何かプロジェクトが立ち上がってくるのではないかと思う。そのように市民生活に寄り添う形の取り組みを、エコプラザで展開できたらいいなと思っている。そういう要素がどこに入るのか悩んでいる。
委員	ごみという文字がどこにもないし、どうなのかと思う。
副委員長	<p>機能の話をしているからそういう疑問が出てくる。テーマのもう一つは空間。空間の中にテーマがあり、機能を持たせて運営する。その全部がそろわないと結局イメージできない。それをバラバラに議論していて、熟成していく途中なので、やっていないところがあるのは仕方ない。</p> <p>環境啓発という大きい施設をつくる時に、大事な意見が出たが、環境は非常に多様で複合的で、ごみ問題だけではなく緑、下水、浄水もあれば、CO<sub>2</sub>もある。その全部が今は縦割りのようになっているが、この器の中にいっぺんに入り化学変化を起こすと、初めて、環境って総合的にこうなんだなということが実感できると思う。それを今はバラバラに扱っていて、集めるテーブルがない。</p> <p>私は、今環境市民会議にも入っているが、そこでも、緑化や都市計画、下水などの話につながることはない。結局、こうしていろいろな分野から代表として委員が出てきている訳でもないし、そういうテーブルや場もないから、バラバラに受け止めるしかない。</p> <p>環境問題はひとつずつ分解してしまっては理解できない。まさにそういう特質をこの施設で受け止めることが必要。それが一番大きいし、その中のテーマはいっぱいあると思う。</p> <p>今は機能で考えてしまったから、テーマがバラバラになってしまった。今度はテーマに沿って機能を考えれば、また独自のものが出てくると思う。今はその途中にあるからわかりづらいかもしれないが、じっくり考えたら良いと思う。</p>
委員長	この資料をどう考えていったら皆さんの意見をまとめられるのか、来る前にメモを作った。このエコプラザの会議は、人と人、人と環境、人と社会の関係を有機的に紡いでいく「場のデザイン」を考えていく会議。エコプラザという空間的なものは、場所があり、そこに場づくりをして、機能的に空間をどう考えていくかだと思う。モヤモヤも人と人とを紡ぐが、それは環境というトピック、モヤモヤした環境、規制ばかりされている環境に対し、どうやったら良い

	<p>のとつぶやくおばあちゃんもいるし、自分たちの未来を壊してはならないというお子さんもいるかもしれない。そういうことを言うことが大切と思う。</p> <p>将来的には、エコプラザが場づくり、場所のデザイン、そして地域の人々の居場所づくりにも関与していくのかなと自分の頭のモヤモヤを整理してみた。何層にもなっているところを縦につないだり、斜めにつないだりするところもある。私の頭の中では透明の用紙が何枚か重なっていて、そこをつなぐ糸の色が皆さんの議論の成熟度合によって違い、かつ、どんな組織が担当するかによっても違ってくる。また、時間の経過とともに変化してくのではないかと思っている。</p>
副委員長	<p>他の委員の方が言っていたが、テーマが自発的に出てくるのが大事。指定管理だと、企業やメーカー側が集客しようとするあまり、企業論理でテーマを決めてしまう可能性がある。</p> <p>市民参加なら、地味でも、格好良くななくても、集客力が低くても、自主的なテーマが皆さんの手づくりでできると思うし、実際に皆さん、活躍されているので、それを出すことがまず先決。どういう組織のもとで運営するかはもう少し後で考えた方が良く、指定管理ありきとか、収益ありきとか、そういうのは可能性としてはあるが、先に決めなくて良いと思う。</p>
委員長	<p>学びの視点については、結果だけではなく、やはりプロセスが大事だと思う。学校教育も、結論だけを教えている訳ではない。ここでは、成熟度の高い一般市民が、お互いに学び合う関係性をどうつくっていくのかということも問われていると思う。</p>
委員	<p>周辺整備協議会で柱にしてきたことは、「低炭素社会の手本になることをしよう」、「地域力の向上につながるものにしよう」、「まちづくりにとっても良いものにしよう」、の3つ。これはエコプラザだけでなく、クリーンセンターも周辺のまちづくりのあり方も、この3つの柱で構成している。エコプラザについても、この柱を大切にしてほしい。</p> <p>大事にしてきたキーワードとしては、「学び・創造・コミュニケーション」の3つがある。今日の資料では、学びと、コミュニケーションに通じる交流はあるが、創造がない。周辺整備協議会では、ごみの話を検討してきたが、ごみは見方を変えると素材で、素材を創造的に活用すると、素敵なものに変わったり、生活を豊かにしたりするものになるかもしれない。こうした発想、創造という視点はすごく大切だと思っている。周辺整備協議会では、クリエイティブリユースやアップサイクルなど、創造的にごみと関わっている方を会議に招き、話を伺った。創造には、3つの柱をつなぎ、地域の課題を解決し、住民同士のコミュニケーションを円滑にできるという期待がある。それが地域力を高めることになっていくと思う。こうした発想がいきなり低炭素化に向けて、温暖化を</p>



	防止する行動につながるかどうかはわからないが、創造的なスイッチを入れることで、意識が向かうと期待したい。まちづくりはもちろん創造的で素敵な空間にしようということだと思うので、情報伝達の下に、「創造」というキーワードを入れて、機能の話をしていきたいと思う。
委員長	今の意見を入れて、全体的視点の枠に、低炭素、市民参加、まち全体の拠点、という3つの方針がわかるように書き換えていただいても良い。
委員	学び、創造、交流の3本と展示と活動はまったく違うものと考えている。学び、創造、交流は目的に近いものだし、活動や展示は目的の中の方法。順番がどうのということではないが、別にするべきではないかと思う。
委員長	この展示の仕方も単なる展示ではなく、創発的な展示、例えば素材を使った新たな展示もある。廃棄物を使った油絵を観たことがあるが、こうしたことを創発させる、イメージさせることについても考えられると良い。活動と展示、そして学び、交流を少し膨らませるか。
委員	一番左の6つの枠のこれらを同等に扱うのが不思議な感じ。必要条件の枠、目的の枠があり、展示や活動が目的の先だったり前だったりするので、ちょっと違うと思う。これがあってこそその展示活動だと思う。グループ分けの仕方が違うと思う。
委員	何を重視するかは、いろいろな観点があるので、とりあえずテーブルに並べてみましょうと作ったもの。活動と情報伝達などは入り組んでいて、何のためにやるのかというと、学びや交流があったり、事務局の中でも行ったり来たりしている。機能的にツリー図としてまとめようと思いつきながらできなかったので、いただいた意見を基に順列など考えた方が良いと思う。
委員	この施設は、供給者側に立った施設なのか、それとも利用者側の視点に立った施設にしていくのかということを確認したい。全体的な視点にあるとおり、市民参加やまち全体の拠点といったキーワードを実現するためには、一定の集客、市民参加が必要と思う。 武蔵野プレイスは利用者側の視点で運営されている施設だと思うが、同じ境地区にある、ふるさと歴史資料館は供給者側、発信者側の立場で運営されている。どういったスタンスでこの施設を運営するのが良いのかは決めた方が良い。
委員長	プレイスの的にやりたい。
委員	もちろん市民参加だと思っているので、供給者側の立場で話したことは一度もない。
委員長	場所的に、クリーンセンターから引っ込んでいるし、プレイスのように駅前でもない。
委員	もう一点、環境は一般市民からするととっつきにくい。私たちはこの会議でいろいろと話しているが、一般市民には直球ではない変化球が必要で、今回出

	<p>ているものは、どちらかという直球それも豪速球のもので、もう少しフックのあるような視点も今後は必要だと思う。</p>
委員長	<p>今回はクリーンセンターに関わっている委員の方が3人いて、新しく入られた委員の方も多くいるので、クリーンセンターや新しいクリーンセンターをつくった歴史なども踏まえながら考えていきたい。</p> <p>また、廃棄物は環境問題にストレートに関わり、私たちのライフスタイルにも関わるので、多角的な視点から、初級者も上級者も学べる場、あるいは学び合える場づくりを考えてきた。</p> <p>自分たちの行動が温暖化や異常気象を招き、目に見えないさまざまな破壊行為も現れている。行動、啓蒙で絶対解決できるとは言いきれないが、少しでも生き延びていくための英知を結集する、そういう場であってほしいという願いもある。武蔵野市のエコプラザは、市民参加型で、利用者側の視点を大切にしている。</p>
委員	<p>プレイスとふるさと歴史館は近くにあるが、もともとの成り立ちがまったく違う。プレイスは市の3駅に3つの図書館をつくる3館構想があり、図書館機能だけではなく、生涯学習支援など、4つの学びの機能を大事にしようというコンセプトでつくった。だから〇〇図書館ではなく、プレイスという名称にした。</p> <p>一方、ふるさと歴史館は、日本でも公文書の大切さが見直され、公文書をまとめた公文書館として整備すれば、見に来る人もいるのではないかという発想からできたもの。エコプラザはプレイス型で、市民の皆さんにたくさん来ていただきたい。</p>
委員	<p>何年前かにふるさと歴史館で古文書講座を受けた。武蔵野市でも20年以上の歴史ある講座で、十数人の市民が一年間講座を受ける。日本の場合、公文書が民間にあるが、昔からの文書が埋もれていて、そのインデックスもないということで、市民参加でやっている。もっと宣伝して良いと思うし、その拠点としてできたのだと思う。</p>
委員長	<p>地域のお祭りの時に、この土地の成り立ちを自分の家の歴史と結びつけて、話を伺ったことがある。こうした方がいるうちに過去にも学び、現在を知り、未来がどういう社会であったら良いのかを学び合う場であってほしい。</p> <p>選ばれている人だけが議論すれば良いということではなく、皆さんも地域の方に、どういう機能を持たせたら良いか、どういう場になれば良いかをぜひ聞いていただいて、開かれた場にしてほしい。</p> <p>市民公園で水曜日に集まっているお母さんたちが、エコプラザに興味を持ち、子供の未来やこの地域、武蔵野市、東京、日本の環境について考えてもらえたらありがたいと思う。私たち日本人は歴史に学ぶということをあまりしていない</p>

	いので、ぜひ考えてほしい。
委員	<p>集客の話は身につまされる。イベントに出展するが、人に来てもらうことにいつも苦労している。手を替え品を替えいろいろ工夫し、企画ごとに来てもらうために知恵を絞っている。</p> <p>少しこの資料で違和感があるのは、必要条件の全般的事項と来館者等対応。そこから下の5つが二重線で囲われており全部マネジメントとなっているが、管理的部分と本体事業的な部分とは、大きく分かれている方がわかりやすい。</p> <p>マネジメントは管理でも事業でも必要なのであえてここに示さないが、NPO法人とか公益法人の会計基準に沿った言い方だと、管理部門と事業部門があるので、それで分かれている方がわかりやすいと思う。</p> <p>また、一番下の活動は、全部活動ということもできるので、ネーミングに苦労されたのだろうが違和感がある。考えてみたが思いつかない。</p> <p>マネジメントについては、先ほどの資金集め(=ファンドレイジング)につながることだが、成果をどのくらい出しているかを市民に報告しなければならない施設だと思う。最近、非営利事業の部門でも、成果志向のマネジメントと言われているので、できる限り客観的な成果を志向していくということがあっても良いと思う。</p>
委員	<p>建物の機能とかいろいろと意見が出ているが、武蔵野市の建物として誇りある良い建物をつくるのであれば、武蔵野市全体が他とは違う環境をつくり、その中心にエコプラザがあるという施設にしたい。全体的にエコという感じがあると良い。杉並区に住んでいて、徒歩で武蔵野市に通っているが、武蔵野市に入ると道が違う。道路に緑色が塗ってあったり、入っただけでもエコを感じる。その中心の施設、お城のようなものと考えてはどうか。日本人は、建物は保存するが周りは保全しないことがよくあるが、武蔵野市に入った瞬間に、違うなと思わせる、壮大な計画だが、そんな視点も必要だと思う。</p>
委員長	<p>今、旧クリーンセンターの使わない施設は壊しているが、その後、芝生化したり、樹木を増やしたりすることで、クリーンセンターとエコプラザが全体的に一体化することになる。空間的にも一体化して機能できるようになる。先ほど話した市民公園の芝生に来るお母さんたちが、エコプラザの前の芝生に来てくれるとありがたい。</p>
委員	<p>今は地味な入口だが、もっと出入りしやすいようにしたい。</p>
委員長	<p>周辺整備協議会では、どう開放的につくるかということも議論している。</p>
副委員長	<p>空間の話がまだ未知数。箱は決まっているが、実際に見学しても結構な気積、容積。こうした活動や機能で埋めると言っても、持て余すと思う。本当にあれだけの気積が必要かどうか。最大限に生かすくらい活発になれば良いが、できるかどうかかわからないと思う。</p>

	<p>私に関わっている「ものづくり」は、大抵いつまでに予算いくらでどんな機能で誰が運営するか、ということが全部決まっています、形をつくるという仕事ばかりだが、今回は逆なので、そこはすごく良いし、健全だと思う。箱をつくることについては、そんなに古くはないが、ひとつの産業遺産で、これまでのいろいろな市の問題を残していると言えらると思う。新しいものができるので、すべてキャラにしていれば良いという議論もあると思うが、機能しないから要らないというレベルのものでもない。その側面をどう使いながらどう位置づけるのか、それは周辺のつくり込みの仕方や、テーマ・機能・空間・運営とも、いずれくっついてくる。</p>
委員長	<p>横浜市の市営地下鉄の元町辺りに、昔の港のものが置いてあるが、デザイン的に目線から乖離しているように思う。ここでは、せっかく残っている空間は残したいと思う。</p> <p>クリーンセンターに関わってきた人たちからは、そうした意見も出ていたし、どうデザインするかは、デザイナーの力量も問われる。また、意見を言っていきたい。やはり産業遺産的な施設遺産としてどう活用するか、それがイメージしやすいデザインとして残したいと思う。</p>
委員	<p>敷地に最初から木を植えてきれいにする方法もあるが、できれば段階やアクションによりできる自然のつくり方を大切にしたい。学校のビオトープはほとんど完成しているが、瓦礫を積んで多孔質にするという提案も出ていて、変化が出てくるような視点があると良い。</p> <p>最近、この辺りにいっぱいいたコウモリも害獣だと言われており、木造の壁に巣をつくるので、中に入って困るとテレビで放送していたが、そういう場所もだんだんなくなってきた。ここから自然のことを発信していくとなると、都心の小学校でやっているように絨毯を敷いて、めくったら何が出てくるかみたいなどころから始め、段階的に自然が豊かになる姿を皆でつくって行って、10年20年経って蓄積していくというストーリーが自然だと感じる。</p>
委員長	<p>クリーンセンターは煙突をリユースし、デザインもクリーンセンターに合わせたものにした。市役所側を芝生化すればイベントにも使え、ピクニックやお昼を食べに来ても良い。クリーンセンターの2階にカフェをつくるという話も当初あったが、エコプラザの方にカフェをつくってもらえたらと思う。毎日できなくても、地域のお母さんたち、お父さんたちで、順番にやっても良いと思う。今回は丁寧にまとめていただいたので、多様な意見が出たと思う。新しい市長にもわかっていただかないといけない。</p>
委員	<p>しっかりと伝えなければならぬと思っている。</p>
委員	<p>9月17日のエコマルシェで、おもちゃと絵本のかえっこをやった。その日は台風だったが、200人の方が来られたと聞いた。緑町や北町4丁目、5丁目な</p>

	<p>ど、近くの方が中心だったが、私たち出店者が暇になることはなかった。緑町にはコミセンがあるが、旧クリーンセンターには集う場所がなかった。明らかに新しいクリーンセンターは人が集まる場所になっていて、地理的に隣接している新クリーンセンターとコラボレーションすることで、相乗効果が得られると良い。人を集めるために連続性を持たせるということを考えていく必要がある。二度のマルシェでそうしたことを感じた。</p>
委員	<p>絵本のかえっこは初めて行った。そんなに本は出ないだろうと思っていたが、93冊も出た。子どもたちがあんなに本が好きだとはびっくりした。11月19日にまたやるので、持ってきてくださいねと話したら、どこの家にも、要らなくなった絵本がいっぱいあるから、それをカエルポイントにできるならとおっしゃっていた。おもちゃのかえっこは子どもっぽいと言って、10冊くらい本を持って帰った子が何人もいた。何がヒットするかはわからないが、私もすごく学びがあったし、やって良かったと思った。皆さんも要らない絵本があったら、持ってきてほしい。</p>
委員	<p>台風で雨だったので、ふだんは展示スペースになっている見学者コースにテントを出してブース化して行ったが、そうした使い方も初めてやって良かったという感触があった。何もない見学者コースが、いざとなればああいう使い方ができる。それこそフレキシビリティだと思った。それがエコプラザでも大事だと思っている。先ほど産業遺産という話があったが、プラットホーム自体が産業遺産、コンクリートのたたきの空間があればいいのは市内で他にない。あの空間を生かすのは大事だと思う。あの空間を埋め尽くすということではなく、フレキシビリティ、可変的に利用することが重要だと思っている。なぜ大事かという、集客の話で言えば、プレイスはやはり図書館とカフェと広場というマグネットの三大要素全部を持っている。エコプラザは広場はできるが、カフェもあった方が良く思う。図書館がないので、どうしたら良いかは、これから考えなくてはならないと思うが、いずれにしても開いている時は誰でもふらっと来てお弁当を食べるとか、そういうことが余白の部分でできる空間の使い方にしておいた方が良く思う。お母さんたちがふらっと来て、あそこの広場でしゃべっている時に、ちょっと日差しが強くなったからエコプラザに入りましょうと。そのついでに展示を見て、なんとなく感じるころがあるかもしれない。そういう空間の使い方が、全然環境に関心がない方が関心を持つきっかけになる。その入り口をいつも開けてある、そういう施設にした方が良く思う。</p>
委員長	<p>本の移動も、車が付いたものを使えばいくらでもできる。カフェも屋台で移動すれば良いだけなので、そういうこともできると思う。いろいろなことが皆さんのアイデアでできると思う。お母さんたちも、ちょっとおしゃべりして、</p>

	そこにごみや環境のことが出てくれば良いと思う。
委員	武蔵野市はふるさと納税はないのか？
委員	ない。みんな出ていってしまう。
委員	<p>どう使ったら良いのかわからないくらい財産を持っている人たちの中には、武蔵野市の環境のために使ってほしいと言ってくれる人もいる。極めて個人的に、「今度、球根を配るのください」と言うこともある。どこに寄付したら良いのかわからない人たちがいるので、こうした受け皿があれば良いと思う。ふるさと納税は、自分のまちのお金になるべきものが、よそにいつってしまうので、武蔵野市も自分のまちのお金は自分のまちで使うというスタンスになっても良いように思う。</p> <p>お金については、こういうことに使ってほしいという中間支援が、ここでできたら良いと思う。100万、200万ほしいのではなく、10万、20万あつたらできるといことがほとんどなので、そうしたサポートができる仕組みがあると良い。</p> <p>水曜日は幼稚園が半日なので、降園時にお弁当を持ってきて、公園にお母さんと子どもたちが集まっている。自分にも経験があるが、どんぐりや種を使って遊んでいると子どもたちがついてきて、ひとしきり遊んで帰ることがあった。</p> <p>三鷹市内のある会社の社員食堂では、子どもが食べても安心な食事を出していて、お昼になると子連れのお母さんたち向けに開放している。不便な場所なのに、お昼には予約でないと入れない。クリーンセンターは屋上で野菜を作ったりしているので、お母さんたちを呼び込むカフェプラス軽食があると楽しいと思う。</p> <p>また、先日、「みちまちみどり」で花壇と雨水タンクを特集した。雨水タンクは常に空にしておかなくてはいけないが、タンクを設置したことで良いことをしたような気になっていた。本当は頻繁に使って、雨が降る前に流しておく必要があるが、これに気が付くまでとても時間がかかった。</p> <p>市役所のタンクも使っていない。夏だと打ち水で使えるが、使って良いと書いていないし、打ち水してくださいとも書いていない。タンク単体では何もわからないことがわかり、今回、花壇とタンクというテーマで、タンクの水を子どもたちに使わせ、緑には水が必要なことを考えさせるような特集にした。下水道課、緑のまち推進課、単体では、なかなかこうしたことを結び付けられないとわかった。</p> <p>環境の話は、結びつくまで時間がかかるが、分野を超えた人が集まると化学反応が起きるので、それを市の施策に反映できたら良いと思った。</p>
委員長	他の委員の話にあった自然の変化なども、一緒にやってみることが大切かもしれない。小金井市の雨水タンクには、六市の協定のことが書いてあった。ま

	<p>た、井荻小学校の子どもたちが、大雨が降った時に善福寺川に白い花が咲いているのを見つけたが、それは実はトイレトペーパーだった。合流式下水道なので、大雨が降ると、処理しきれずに善福寺川に流れてしまう。その原理を子どもたちがわかることから学習が始まる。</p>
副委員長	<p>マネジメントの中で一つ追加の提案をしたいのは、「アーカイブ」の機能。昭和記念公園の文化センターの立ち上げに関わり、そこでも提案したが、うまく伝わらなかった。いろいろなイベントや展示や催しをしているが、ほとんど記録されていない。その間に指定管理者が2回変わったが、ノウハウが蓄積されず、残っていない。今まで何をしたのか、同じようなことをする時に、人脈やノウハウを一つのフォーマットに記録し、貯めておけば、何をするか参考にもなる。</p> <p>一定の様式で、どんな企画で、来館者が何人で、どういう人が関わったかを市に残るように記録しておかないと、やりっぱなしになってしまう。</p>
委員長	<p>アーカイブの視点は、項目の中のクリーンセンターの活動の歴史の継承にある。活動の視点にもあるし、展示のところにもある。これは、他の自治体にはないことで、クリーンセンターと市役所の20年史みたいなものを加えていきたい。</p>
委員	<p>これから労働人口が減り、あと何十年かすると労働可能人口が半分くらいになると言われている。その時に日本はどうなるかと考えると、アーカイブや活動のナレッジをどうマネジメントしてつないでいくか、経験値をどう高めていくかということだと思う。仕事やさまざまなことをAIなどに蓄積し、勝つ方策を見つけると、そういうことをICTも含めて考えていかないといけない。仕事や楽しさなどを機械でガチガチにするのではなく、うまく使い込む社会が相当早く来るのではないかと思う。勝った経験も負けた経験もアーカイブスとして積んでいく。その中から、市民が時間と共に求めてくる要求に、どうフィットさせるかを経験値として積んでいくことが大事だと考えている。</p>
副委員長	<p>ただの記録ではなく、次の企画のための蓄積で、リスク管理にもなるし、発想にも役立つ。</p>
委員長	<p>始めに申し上げた環境系の団体の継続、世代交替の難しさはそこにあり、ノウハウが伝えられていない。</p>
委員	<p>エコプラザは誰を対象としているかを最初に確認したところ、当然市民とのことで、当事者は誰かと聞くと、市役所ではなく市民とのことだった。どうやって進めるかという、PRしていくことが重要で、市民参加もポイントだと思う。市民の方にわかりやすくすることにおき、優先順位やプライオリティを考える。年代、性別、文化、武蔵野市で生まれ育った方もいれば、違うところから来て住んでいる方もいる、まさにダイバーシティのつぼだと</p>

	<p>思う。</p> <p>また、コミュニケーションツールとしては、コーチング、ティーチング、コンサルティング、カウンセリングなどがあるが、エコプラザはコーチングだと感じている。傾聴という言葉があるが、明確にコンセプトは何か、ビジョンは何かといったところを、間口を広く、敷居を低くして、市民からいろいろな意見や声の引き出しをたくさんつくる必要がある。「武蔵野市民のものがたり」や、「武蔵野市みんなのエコプラザ」、これが伝えられて、共有できて初めてエコプラザができるのだと思う。企業ではマーケティング、マーチャндаイジング、マネジメントの3Mが大切で、常にマーケティングである。お客様、市民、いろいろな考え方を持つ方がたくさんいらっしゃる中で、どこにベクトルを合わせるかといったところに、コーチングのような考え方を取り入れることで、ぜひ参画したいとなるのではないかと思う。</p> <p>レジ袋の削減なども、参加することでメリットや、インセンティブがあると、実生活の中で浸透させやすい。まずはエコプラザが誰のために何をしていくのかを、見える化することが大切ではないか。新市長が女性なので、女性の視点で、日常的生活から生まれる悩みをみんなで解決していくというのが、エコプラザのひとつのベースになるのではないかと思う。それを見える化した方が良い。</p>
委員長	<p>その他について、事務局から説明をお願いしたい。また、ご意見がある方は事務局にお届けいただきたい。</p>

## 2 その他

発言者	要旨
事務局	<p>次回の日程の確認及び参考資料について補足説明。</p> <p>今回から会議資料は事務局にて保管、委員ごとにファイルを作り管理する。</p> <p>今後のスケジュールについては次回の会議で改めて案内する。</p> <p>11月12日の環境フェスタ、11月19日のエコマルシェでブースを出店する予定。</p>
委員長	<p>次回もよろしくをお願いしたい。</p>